

二〇六二番

機はたものの踏ふみ木ぎ持もち行ゆきて 天あまの川がは 打うち橋はし渡わたす
君きみが来こむため

二〇六三番

天あまの川がは 霧きり立たち上のぼる 織たな女ばたの 雲くもの衣ころもの 反かへる袖そで
かも

二〇六四番

古いにしへに 織おりてし服はたを この夕ゆふへ 衣ころもに縫ぬひて
君きみ待まつ我われを